



〈雜錄〉北米合衆國食物供給問題

瀧谷，善一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 9(2):321-325

(Issue Date)

1910-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051612>



北米合衆國食物供給問題

商學士 瀧谷善一

食物供給問題ハ目下北米合衆國ニ於テ盛シニ論議セラレ
ツ、アル問題ノ一ナリ、之レニ關スルヒル氏ノ所論ハ本
誌第八卷第四號ニ於テ高岡教授ニ依リテ紹介セラレタリ
下文ハ「スタチスト」記者ノ意見ニシテ、本問題ニ就キ前
掲所論ト關聯シテ參考ニ値スルヲ以テ左ニ之ヲ譯載ス。

今ヤ北米合衆國ニ於テハ現在ニ於ケル農產物
ノ產額及ビ將來ニ於ケル其輸出ノ可能ニ關シ盛
シニ論議セラレツ、アリ。抑此問題ハ主トシテ
近時米國ニ於ケル穀價ガ過去ノ其レニ比シ昂騰
セルノミナラズ、外國ニ於ケル其レニ比スルモ
高價トナレルニ其源ヲ發シ、最近穀物ノ輸出ノ
減少ガ主因トナリテ貿易ノ差額ガ從前ヨリモ不
良トナリタルニヨリテ大ニ世人ノ注目ヲ惹クニ
至リシモノナリ。而シテ或論者ハ米國ハ今ヤ其
生産スル穀物ノ全部ヲ內國消費ノ爲メニ要シ、
遠カラズシテ穀物ノ供給ヲ外國ニ仰ガザルベカ

ラザルニ至ルベシト悲觀シ、有名ナル學者論客
ハ此機ヲ利用シテ公衆ノ注意ヲ農業ニ導キ農耕
法ノ改良ニ依リテ生産ノ増加ヲ計ラザルベカラ
ズト主張セリ。吾人亦此種ノ手段ヲ探ルニ全然
左袒スルモノナリ。蓋シ米國ノ事情ニ通ズル者
ハ同國ノ將來ニ於ケル國富竝ニ人口ノ發展ハ土
地ノ生産力ニ依ラザルベカラザルヲ知ルベク、
而カモ過去十年間同國ニ於テハ工業ガ過重視セ
ラレ、農業ガ過輕視セラレタルコトハ何人モ否
定スベカラザレバナリ。然リト雖モ輕々シク米
國ニ於ケル農業ノ前途ニ關スル誇大ノ論議ニ謬
ラレテ這箇ノ事實ノ真相ヲ誤解スルナカラシ
トヲ要ス。成程、米國ニ於ケル穀價ハ高ク、多數
ノ勞働者ハ之レガ爲メニ困却セルコトハ事實ナ
リ。又穀價ガ現在ノ程度ヲ維持スルニ於テハ賃
銀ノ騰貴ヲ來スベキコトモ明ナリ。サレド各種
ノ事情ヲ分解シテ研究スルニ於テハ米國ガ其農
產物ノ生産ヲ増加スルカハ猶甚ダ大ニシテ、現

時ノ狀態ハ單ニ一時的ノ變態ニ過ギザルコトヲ知ルベシ。

此論決テ證明センガ爲メニハ少シク過去ノ事情ニ遡リテ説明セザルベカラズ。千八百九十年代ハ穀價ガ非常ニ低落シ、食物、棉花、羊毛等ハ一時半價ニ下リタル程ニテ、米國ニ於ケル農業ノ甚ダ窮境ニ陥リタル時代ナリ。從ツテ當時農業ニ從事スル者ハ減少シ、反對ニ工業ハ穀價及ビ原料品ノ安價ナルニ因リテ非常ニ發達ノ刺激ヲ受ケタリ。從ツテ千八百九十年代以後ハ食料品ノ生産ハ比較的ニ減少シ、工業ハ大ニ發展ヲ爲スニ至リシナリ。唯夫レ一九〇七年ノ出來事ナカリシナラバ、カクモ早ク食物供給問題ヲ惹起サバリシナランモ、同年ニ於ケル財界ノ恐慌ハ一時輸入品ニ對シテ正金ノ支拂ヲ爲ス代リニ容易ニ賣却シ得ベキ各種ノ商品ヲ輸出シテ其代金ニ充當セシムルノ已ムナキニ立至ラシメ、食料品ノ法外ナル輸出ヲ見ルニ至リシカバ、此ニ

端ナクモ食物供給問題ノ端緒ヲ開クニ至リシナリ。

抑、一九〇七年ノ小麥ノ產額ハ前年ノ七億三千五百萬「ブッシェル」ニ對シ六億三千四百萬「ブッシェル」ニ過ギザリキ。此ノ如ク收穫ノ多カラザリシニモ拘ハラズ同年七月ヨリ一九〇八年六月ニ至ル一年季間ニ小麥ノ輸出セラル、モノ一億「ブッシェル」麥粉ノ輸出セラル、モノ千四百萬「バーレル」(小麥ニ換算スレバ六千四百萬「ブッシェル」)合計一億六千四百萬「ブッシェル」ニ上レリ。從ツテ内國消費ノ爲メニ殘サレタル額ハ僅ニ四億七千萬「ブッシェル」ナリ。他方内國消費額ヲ見ルニ一八六「ブッシェル」ハ普通ノ割合ナレバ之ニ依リテ計算スレバ五億二千萬「ブッシェル」ヲ要スル次第ナリ。カクノ如キ事情ノ下ニ當時米國ハ小麥ノ持越高ナクシテ一九〇八—一九〇九年季ニ入レリ。然ルニ一九〇八年ニハ小麥ノ產額六億六千五百萬「ブッシェル」ニシテ、此内輸出用ニ

供セラレタルモノ麥粉ノ分ヲ合シテ一億六千萬「ブッシェル」ヲ差引キ五億四千九百萬「ブッシェル」ヲ内國消費ノ爲メニ殘セリ。此亦全然同年季内ニ消盡サレ一九〇九—一〇年季ニ持越スベキ小麥ヲ留メザリキ。サレバコソ昨年ノ春小麥ノ價格ガ著シク騰貴セルナレ。越エテ一九〇九年ニハ作柄稍佳良ニシテ七億三千七百萬「ブッシェル」ニ上リ、一九〇九—一〇年季ノ内國消費額平均一人六「ブッシェル」ト見テ五億四千萬「ブッシェル」ヲ差引ケバ二億「ブッシェル」ノ餘裕ヲ生ゼリ。他方輸出額ヲ見ルニ本年二月末迄ニ小麥麥粉ヲ合シテ僅カニ六千二百萬「ブッシェル」二月以後ノ輸出モ活潑ナラザレバ先ヅ此年季内ニハ合計一億「ブッシェル」ニモ及バザルベシ。サレバ一九〇七—〇八年ノ恐慌年季ニ消盡セラレタル小麥ノ在庫品ハ此ニ初メテ補充セラレ必要ノ場合ニ供スベキ貯藏ヲ備フルコトヲ得ルニ至レルナリ。而シテ本年度ニ小麥ノ輸出ノ多カラザリシハ穀

價ガ本年ノ春ニ入ラバ再ビ昂騰スベシトノ豫想ヨリ農夫モ商人モ投機業者モ一般ニ賣惜メルニ因ルモノナリ。然ルニ本年一月一弗三十仙ヲ示シタリシ小麥ハ最近紐育ニ對シ金貨ノ需要大ニ起リタル結果生産物ヲ擔保トスル貸付ガ引締メラレタルヨリ、四月末ニハ一躍一弗十三仙ニ下リシカバ、更ニ賣惜ノ狀態ニ陷リ、其後金貨積出ノ必要已ミ、貸付ノ引締緩メラレ、小麥ノ價ハ再ビ一弗十七仙ニ恢復スルニ及ビ此ニ多少ノ賣放チヲ見ルニ至リシナリ。サレドモ猶在庫品ノ新季ニ持越サルベキ額多ク優ニ一九〇七—〇八年ニ於テ消盡セラレタル額ヲ填補シ、小麥ノ保有高ハ常態ニ恢復セラルベキ見込ナリ。

此ノ事ハ一九一〇—一一年季ノ豫想ニ大ナル關係ヲ有ス。今ヤ小麥ノ在庫品ハ全ク恢復セラレタルヲ以テ、新季節ハ全ク新收穫ノ大小ニ依リテ左右セラレ、新收穫ガ大ニシテ季末ニハ更ニ持越品ヲ増加スルノ見込立タンニハ、一般ニ

賣急グ結果小麥其他ノ食料品ノ輸出ハ其常態ヲ恢復スルニ至ラン。

要之、食料品ニ關シテハ一九〇九—一〇年季ハ一九〇七—八年季ト同ジク寧ロ常態ヲ逸セルモノト見テ可ナリ。即チ一九〇七—〇八年季ニハ賣放ツベキ必要ニ迫ラレテ輸出ハ著シク巨額ニ達シ、一九〇九—一〇年季ニハ持越スベキ願望ト能力トニ動カサレテ輸出ハ甚ダ少額ニ止リタリ。後年ノ常態ハ前年ノ事情ノ當然ノ結果ナリ。事情此ノ如クナルヲ以テ吾人ハ米國ニ於ケル食料品問題ニ關スル適確ナル斷案ヲ下スコトヲ今暫ク差控ヘ、今後ノ成行如何ヲ見ンコトヲ豫想セント欲ス。カクセハ實際ノ狀況ハ自ラ米國ガ其自己ノ人口ヲ支フルニ充分ナル食物ヲ供給シ且ツ外國ニ輸出ヲ爲シ得ルノ能力アルヤ否ヤノ問題ヲ解決スベシ。吾人ノ見解ニ依レバ米國ハ來年季ノ豐作ニ依リテ再ビ多額ノ穀物ヲ輸出スルコトヲ得ベシ。肉類ニ至リテハ其趨勢ヲ

豫想センガ爲メニハ今少シク時日ノ經過ヲ觀測スルコトヲ要ス。蓋シ一九〇八年以來家畜飼料ノ價格ガ騰貴セルヨリ農夫ハ一時穀物ノ耕作ヲ有利ナリトシテ之レニ轉業シタル結果、家畜ノ飼養ノ減少ヲ來セリ。サレバ現今ノ家畜ノ存在高ガ果シテ永續的常態の數字ヲ表ハセルヤ否ヤヲ判斷センガ爲メニハ飼料ノ供給ガ常態ニ復スルノ時機マデ待タザルベカラザレハナリ。

上述ノ如ク吾人ノ見解ヲ以テスレバ過去二年間ニ於ケル米國ノ農產物ノ供給及ビ輸出ノ狀態ハ一時的ノ變態ニ過ギズシテ、其供給及ビ輸出ハ將來更ニ大ニ膨脹ヲ來スベシ。而シテ遠キ將來ニ對シテモ吾人ハ亦樂觀ス。蓋シ米國ニテハ今日マデ耕作セラレツ、アル地積ハ穀物ノ栽培ニ適スル土地ノ總面積ニ比シ比較的小ナリ。成程、現今ハ國有未開地ノ面積ハ甚ダ少クナリ、土地ノ大部分ハ私人ノ專管ニ屬スルハ事實ナルモ、此私人專管地ノ内開墾セラレタル地積ハ僅

ニ其半ニ過ギズ。サレバ將來米國民ガ現時ノ如ク引續キ食料品ノ生産ヲ増加スルノ必要ニ迫ラレンカ、一ニハ未開地ノ耕作ニヨリ、一ニハ農耕法ノ改良ニヨリテ生産ノ大増加ヲ來シ得ルヤ疑ナケン。今ヤ米國ニテハ食物及ビ衣類ノ低廉ニ因リテ嘗テ工業ニ與ヘタル刺戟ハ消失シ去リ之レニ反シテ農産物ノ價格ノ騰貴ハ農業ニ新ナル活動ノ機運ヲ與ヘツ、アリ。漫リニ前途ヲ悲觀スベキニ非ズ。
